

2. 看護学修士課程での学び

特定医療法人三栄会 ツカザキ記念病院
山根 一美

私は、師長になって5年目の年に兵庫県看護協会が主催するファーストレベル教育課程を受講した。そこでは医療現場の変化に対応しながらマネジメントすること、患者の多様なニーズに対応できるよう看護サービスの質の向上に努めること、そして人材育成など看護管理者に必要な知識を幅広く学ぶことができた。ファーストレベル教育課程で学んだ内容を論理的な思考に基づいて実践の場で発揮するためには、まだまだ十分に理解できて実践しているとは言えず、もっと専門的に深く学ぶ必要があると感じていた。そのような時に、関西福祉大学に大学院看護学研究科が設置され、そこに私が学びたいと思っていた管理学の分野があることを知り、もっと深く専門的に学びたいと思い入学を決意した。

大学院に進学するうえで、学業と仕事の両立、経済面という課題があったが、幸いにも職場の理解と協力、支援を受けることができ、家族の協力も得ることができた。

大学院1年目では、看護理論や看護倫理、看護教育方法論など、臨床で勤務しているとなかなか学ぶことのできない科目を深く、専門的に学ぶことができた。同時に、修士論文のための文献検索を行い、授業の課題レポートやプレゼンテーションの準備などを行った。看護師管理者には概念化する能力が必要と言われているが、この課題やプレゼンテーションは、自分の考えていることを言語化して人に伝えるという能力の向上につながっている。また、院生の中には大学や専門学校で教員をされている方もいて、同じ看護職でありながら違う立場での意見を聞くことができたのも大きな学びであった。

2年目は修士論文作成のための活動が中心であった。学内での倫理審査を受け、研究協力依頼、インタビューの実施を行った。私の研究テーマは「中堅看護師がキャリア発達の中でとらえる看護管理者像」であったため、中堅看護師10名にインタビューを実施した。自院の中堅看護師と共通する部分や、素晴らしいと感じることもあり、インタビュー自体は楽しんで実施することができた。だが、いざ分析、論文の作成になると自分の語彙力の乏しさを痛感し、1行も書けない日もありとても辛かったことを思い出す。しかし、職場の協力もあり、論文作成に集中させてもらうことができたので、何とか無事に修士論文を作成し修了することができた。この2年間で得た学びは、高度な専門的知識を得たことはもちろんであるが、修士論文を作成する過程で、臨床の現場こそ新しい看護知識の提示やエビデンスの提供の場となる研究の課題があり、成果が実感できる場であるということである。

看護系大学院の数は年々増しており、2014年の看護系大学院修士課程の数は147課程と報告されている。看護系大学院は、大学や実践の場で培ったことを基盤にして、さらに高度な学識と実践能力を育成することが目的とされている。修了した現在、大学院で受けた教育をどのように現場に生かしていくか模索中である。大学院で学んだ高度な専門的知識を発展させ、看護の研究的視点を持ち、臨地教育・指導を行っていくことが課題と考えている。また、修士課程での研究活動が現場の問題解決につながり、他のスタッフに還元されていけば、私が修士課程で学んだ意義や価値が認められると思っている。